【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	大分県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	別府市立浜脇中学校					
学　年	１年	２年	３年	障害児学級	計	教員数
学級数	２	２	３	１	８	１９
生徒数	７５	７４	９４	１	２４４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を身につける生徒の育成
～個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・全学年・数学
生徒の能力差が生じやすく、理解度に個人差が出やすい教科であるため。。

(2)　年次ごとの計画

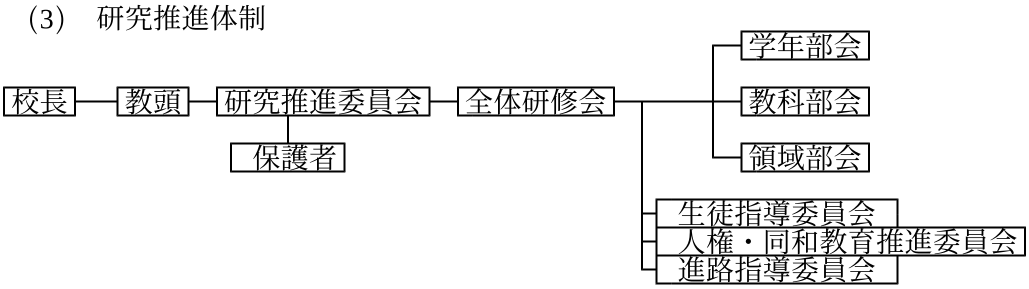
平成14年	
平成15年度	○テーマ 確かな学力を身につける生徒の育成 ～個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～ ○仮　説 各教科において、少人数指導やティームティーチングなどの指導形態を工夫し、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導を行っていけば、生徒は主体的に取り組み確かな学力を身につけることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 （１）本校のとらえる「確かな学力」についての具体化。 昨年度までの校内研究で本校のとらえる学力とは、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んで得た力」の３つからなることを確認している。そこで、より明確に学力をとらえるために、各教科や領域からこの３つの力について具体的に出し合った。 （２）実態調査 生徒の生活実態アンケートを作成し調査、集約、分析を行う。また、学力テストの実施。 （３）数学科における個に応じた指導の工夫。 全学年で、１クラスを２つの少人数クラスに分けるなど授業形態の工夫を行い、基礎・基本の定着を図る授業を研究する。 （４）全教科での取り組み すべての教科で「きめ細かな指導の工夫計画書」を作成し、それに基づいてさまざまな授業形態の研究と実践を行う。 （５）選択教科における多様なコースの開設 ５教科で基本コースと発展コースの１０コースを開設、技能教科では、体・音・技・家の４コースを開設する。 （６）領域部会での取り組み

	生活・生徒会部会、進路・学習部会、人権・道徳部会の３つの部会で基礎・基本の定着を側面的に支える取り組みの研究を行う。

平成16年度	○テーマ 確かな学力を身につける生徒の育成 ～個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～ ○仮　説 各教科において、少人数指導やティームティーチングなどの指導形態を工夫し、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導を行っていけば、生徒は主体的に取り組み確かな学力を身につけることができるであろう。 ○研究の内容・方法 （１）個に応じた指導の工夫改善（少人数指導、ＴＴ、グループ学習など） （２）評価を生かした指導の改善 （３）選択教科の取り組み（発展的学習と補充的学習） （４）総合的な学習の時間とのかかわり

＊　平成１５年度からの新規校については、平成１５、１６年度の計画について記入すること。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　数学の少人数指導については、１学期は生徒の実態把握をしていないために均等クラス、２学期以降はアンケートで生徒の希望をとり習熟度別クラスに分けた。単元ごとにクラス編成を行ったので生徒にとっては得意・不得意分野に応じてコースを変更でき、自分にあった授業を受けることができ好評であった。
また、　・「先生に質問しやすくなった」　・「まじめに取り組む人が増えた」
・「発表する人が増えた」　・「一人ひとりの理解のペースに応じて授業が進む」
などの声が聞かれた。少人数指導では、一斉授業に比べて個々に目がいき届くようになった。

○　すべての教科で「きめ細かな指導の工夫計画書」を作成し、１教科１提案授業を行うことで、さまざまな指導形態に取り組むことができた。また、他の教科の授業を参観することで自分の教科の指導に生かせるヒントを得ることができた。

○　領域部会をつくり、授業を支える側面的な力を学校生活全体を通して考えるようになった。

２．今後の課題

○　各教科からの提案授業によりさまざまな学習形態の研究を行ったり、領域部会から生徒会活動や学級活動、道徳、学校行事を通した取り組みを行うなど研究内容が多岐にわたり焦点化できなかった。また、生徒の現状の何が課題なのかが見えにくい。生徒の実態から、授業をどのように変えたいのかという視点に立って、その変えたい部分を教職員で共通認識して研究を進めていく必要がある。

○　数学科の少人数指導については、コース決めに関して授業や単元の内容よりも人間関係に左右されることも多く、そのために授業に集中できないこともあった。また、理解の遅い生徒に対してじっくり考える時間的保障をどうつくるか、理解度の高い生徒の能力をさらに高めていくにはどうすればよいかが課題である。

○　選択教科での補充学習や発展学習をどう進めていくか。

○　「宿題はしますか」というアンケートに対して、右のように学年が上がるにつれて下がっていく傾向がある。家庭学習についても、保護者にどう啓発していくかも考えていく必要がある。

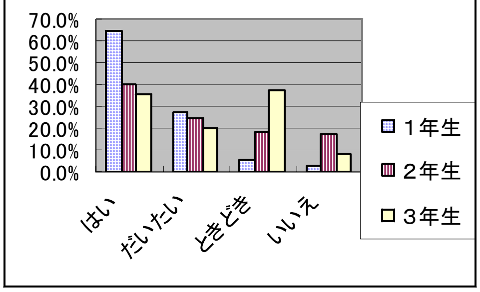


図1 「宿題はしますか」

○　７月と２月のアンケート調査から、授業が楽しいと感じるようになった教科は技能教科が多いことがわかった。これはきめ細かな指導の取り組みの中で、全員が作品を完成させるようにグループ学習での教え合いや放課後の補充学習により達成感や充実感を味わうことができたのではないかと考えられる。しかし、５教科に関してはだんだん難しい、苦手と感じている生徒が増えてきている。学習内容の難易度が増すこともあるが、今後どのように改善していくかが課題である。また、テストでは良い結果を出しているにもかかわらず苦手と感じている生徒もいる。知識の詰め込みにならないような指導や授業の創造も課題である。

【１年生】

		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
得意、楽しいと感じる教科は何ですか。	7月	13.3%	30.7%	40.0%	49.3%	62.7%	44.0	36.0%	49.3%	54.7%	34.7
	2月	20.3%	27.0%	20.3%	55.4%	54.1%	33.8%	58.1%	71.6%	64.9%	59.5%
苦手、難しいと感じる教科は何ですか。		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
	7月	37.3%	58.7%	26.7%	24.0%	26.7%	18.7	28.0%	17.3%	10.7%	21.3
	2月	36.5%	68.9%	55.4%	27.0%	29.7%	33.8	8.1%	20.3%	5.4%	13.5

【2年生】

		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
得意、楽しいと感じる教科は何ですか。	7月	22.9%	14.3%	34.3%	50.0%	38.6%	35.7%	34.3%	64.3%	54.3%	27.1%
	2月	22.9%	18.6%	18.6%	35.7%	27.1%	24.3%	38.6%	68.6%	48.6%	32.9%
苦手、難しいと感じる教科は何ですか。		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
	7月	34.3%	60.0%	48.6%	32.9%	57.1%	21.4%	30.0%	14.3%	5.7%	25.7%
	2月	40.0%	62.9%	57.1%	34.3%	51.4%	24.3%	22.9%	12.9%	12.9%	30.0%

【３年生】

		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
得意、楽しいと感じる教科は何ですか。	7月	42.7%	19.1%	30.3%	41.6%	40.4%	40.4%	20.2%	53.9%	29.2%	22.5%
	2月	35.1%	23.0%	21.6%	32.4%	24.3%	29.7%	23.0%	66.2%	37.8%	21.6%
苦手、難しいと感じる教科は何ですか。		国	社	数	理	英	音	美	体	技	家
	7月	23.6%	42.7%	48.3%	27.0%	37.1%	13.5%	28.1%	11.2%	11.2%	22.5%
	2月	17.6%	23.0%	41.9%	21.6%	35.1%	10.8%	21.6%	4.1%	9.5%	10.8%

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○意識調査（年２回）
　ねらい：学習面、生活面、進路についてのアンケートを行い、授業に取り組む姿勢やそれを支える側面的な力の実態を把握する。
　日　時：平成１５年７月２日、平成１６年２月４日実施
　対　象：全学年
○学力調査（年１回）
　ねらい：生徒の学力の程度を把握するとともに、分析結果を授業に活用する。
　日　時：平成１５年７月１１日実施
　対　象：全学年、国語・数学

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会の予定日時 　日　時：平成１６年１０月２２日（金） 　場　所：別府市立浜脇中学校 　テーマ：確かな学力を身につける生徒の育成 　　　　　　～個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～ 　対　象：別府市内および別府教育事務所管内の小・中学校

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

☑

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級　☑７～９学級　□１０～１２学級　□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　□Ｔ．Ｔによる指導　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☑数学　□理科　□外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭　□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無